

○長さ寸法に対する普通公差 (JIS B0405-1991)

単位：mm

寸法の区分	等級	f(精級)	m(中級)	c(粗級)	v(極粗級)
0.5以上	3 以下	±0.05	±0.1	±0.2	-
3を超え	6 以下			±0.3	±0.3
6を超え	30 以下	±0.1	±0.2	±0.5	±0.5
30を超え	120 以下	±0.15	±0.3	±0.8	±0.8
120を超え	400 以下	±0.2	±0.5	±1.2	±1.2
400を超え	1000 以下	±0.3	±0.8	±2	±2
1000を超え	2000 以下	±0.5	±1.2	±3	±3
2000を超え	4000 以下	-	±2	±4	±4

※0.5未満の寸法に対しては、その寸法に続けて許容差を個々に指示する。

※「長さ寸法に対する普通公差」は、図面などにおいて個々に公差指示がない外側寸法、内側寸法、段差寸法、直径、半径、間隔、かどの丸み及びびかどの面取り寸法に適用する。ただし、括弧内に指示した参考寸法には適用しない。

(通常は「m(中級)」を使用する)

○角度寸法に対する普通公差 (JIS B0405-1991)

短い方の 辺の長さの区分	等級	f(精級)	m(中級)	c(粗級)	v(極粗級)
10 以下		±1°		±1° 30′	±3°
10を超え	50 以下	±30′		±1°	±2°
50を超え	120 以下	±20′		±30′	±1°
120を超え	400 以下	±10′		±15′	±30′
400を超えるもの		±5′		±10′	±20′

※角度の単位で指定した普通公差は、線の、又は表面を構成している線分の一般的な姿勢だけを規制し、それらの形状偏差を規制するものではない。

※実際の表面から得られる線の一般的な姿勢は、理想的な幾何学的形状の接触線の姿勢で決まる。このとき、接触線と実際の線との間の最大間隔は、できるだけ小さい値でなければならない。

○真直度及び平面度の普通公差 (JIS B0419-1991)

真直度は該当する線の長さを、平面度は長方形の場合には長い方の辺の長さを、円形の場合には直径をそれぞれ基準とする。

単位：mm

呼び長さの区分	等級	H	K	L
10 以下		0.02	0.05	0.1
10を超え	30 以下	0.05	0.1	0.2
30を超え	100 以下	0.1	0.2	0.4
100を超え	300 以下	0.2	0.4	0.8
300を超え	1000 以下	0.3	0.6	1.2
1000を超え	3000 以下	0.4	0.8	1.6

○真円度の普通公差 (JIS B0419-1991)

直径の寸法公差の値に等しくとる。

※半径方向の円周振れ公差の値(ここでは非掲載)を超えてはならない。

○平行度の普通公差 (JIS B0419-1991)

寸法公差と平面度公差・真直度公差とのいずれか大きいほうの値に等しくとる。二つの形体のうち長いほうをデータムとする。それらの形体が等しい呼び長さの場合には、いずれの形体をデータムとしてもよい。

○直角度の普通公差 (JIS B0419-1991)

直角を形成する二辺のうち長い方の辺をデータムとする。二つの辺が等しい呼び長さの場合には、いずれの辺をデータムとしてもよい。

単位：mm

短い方の 辺の呼び長さの区分	等級	H	K	L
100 以下		0.2	0.4	0.6
100を超え	300 以下	0.3	0.6	1
300を超え	1000 以下	0.4	0.8	1.5
1000を超え	3000 以下	0.5	1	2